第四十九圖　榛地柿組三懸鞍　〔側〕　（縮寫十分ノ三）

壺鐙は鐵製黒漆塗、沓込の鳩胸が著しい。鐙組には濃い燻韋を用ゐ、鐵製黒漆の鉸具を以て白革の力革にかけてゐる。責金及び端金物は金銅製。

腹帶の根は白の牛皮を用ゐてゐるが、腹帶を失つてゐる。

第五十圖　榛地柿組三懸鞍　〔側〕（縮寫七分ノ三）

鞍褥を失つてゐるが、鞦及び屏脊は完全に近い。

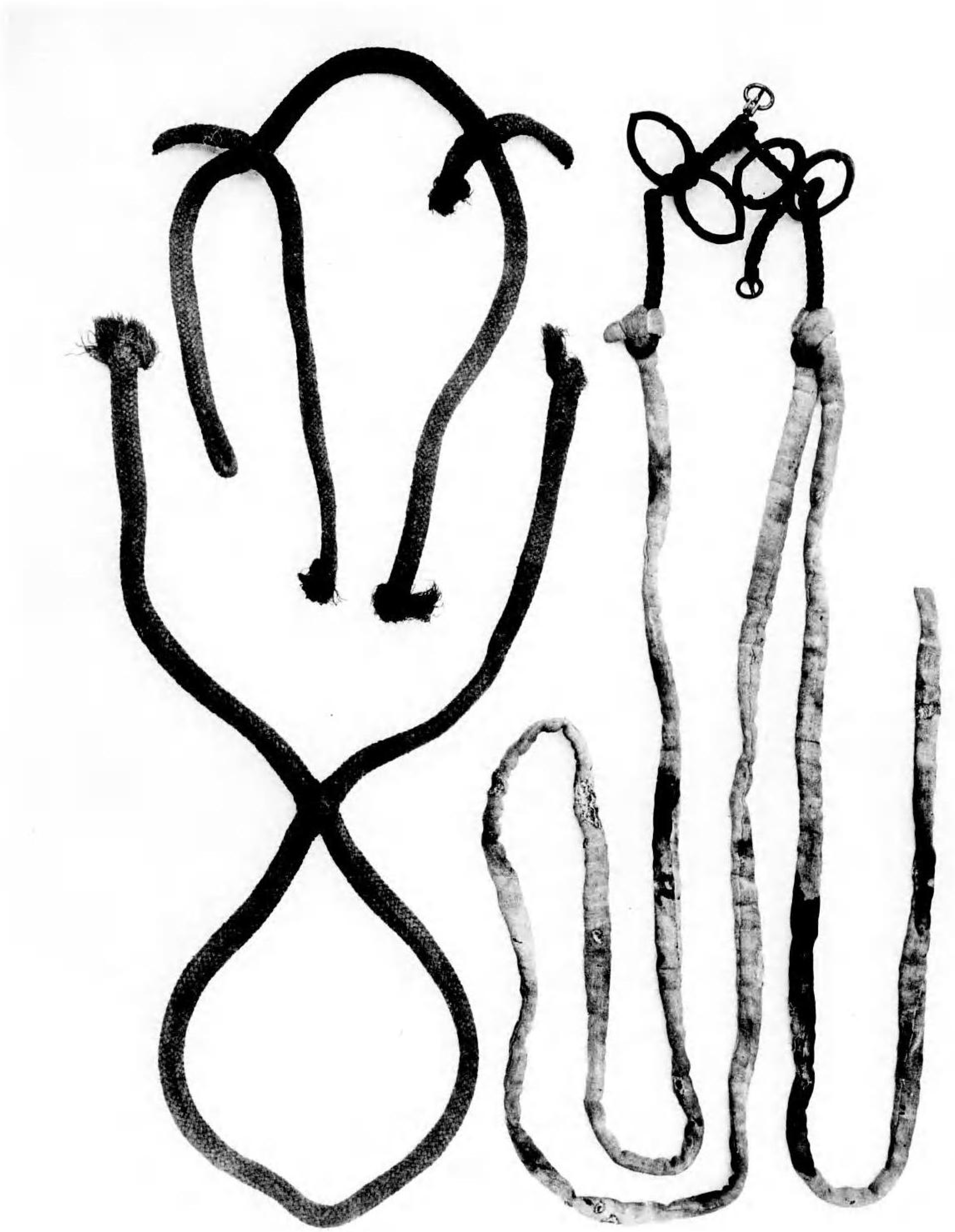
鞦は表を黒漆塗の皺革、裏を赤漆塗皺革とし、心は上より布横目繭莚木葉重ね竪目繭莚布の順に重ねてゐる。なほこれにあつては鞦を居木に絡みつける手法をよく見ることが出來る。即ち鞦裏より表に引き出した絡緒は、左右兩側に於て前後各二個所にあるが、これを居木裏から表へとまはし、表に於て此を縛りつけてゐる。

屏脊は表を白絁とし、緣に花弁鳳凰飛雲蝶等の圖文を現した熏革を廣く繞してゐる。裏には白絁を張つてあつたが、今は殆んど其の全部を損失してゐる。心の搖は明かでない。

第五十一圖　榛地柿組三懸鞍　〔三懸〕　（縮寫四分ノ一）

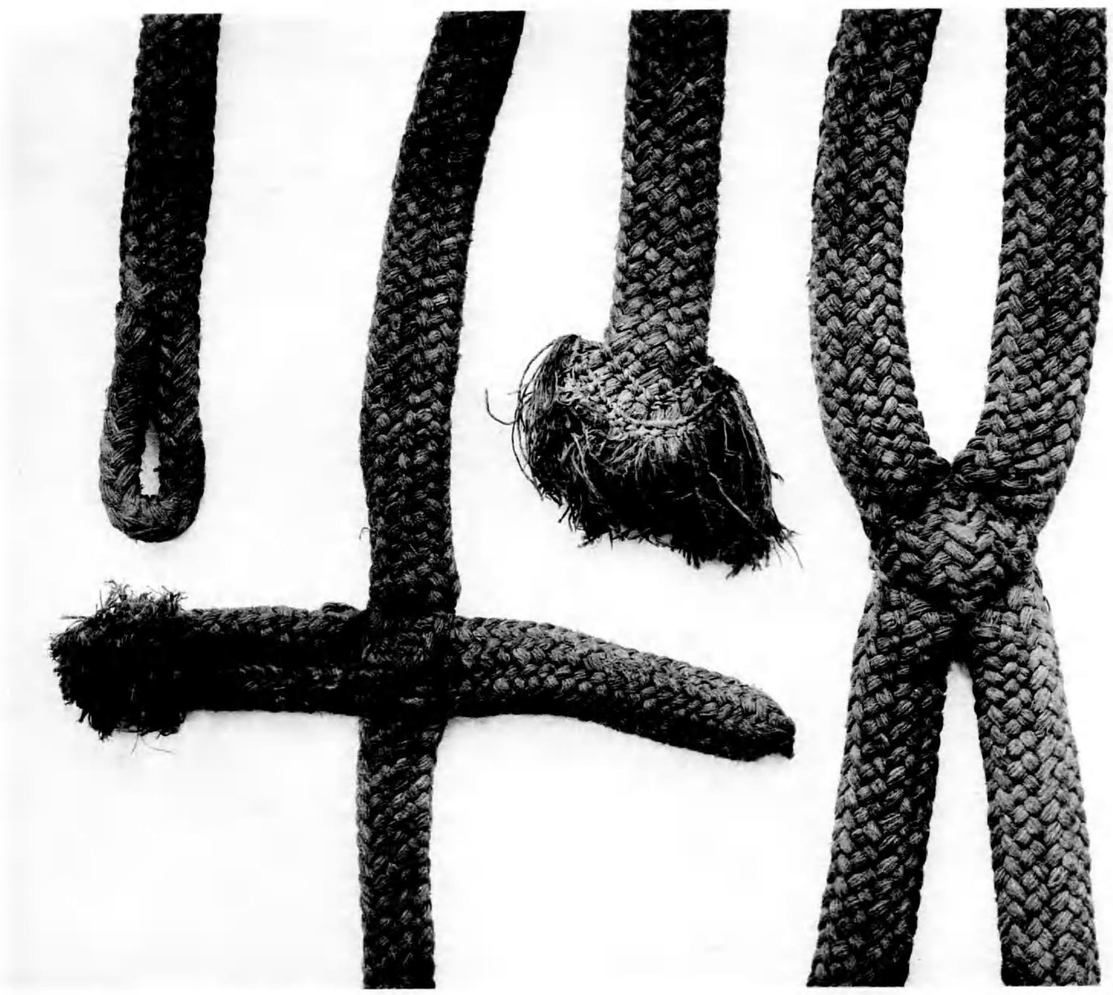
三懸は胸懸及び尻懸を殘し、面懸を失つてゐるが、辻金物もなく簡素の拵である。併し銜の面懸付に鉸具頭をつけてゐるところを見ると、少くも面懸には革緒も併せ用ゐられ、金具もあつたであらう。

鎖引手に絡る手綱は細布卷紬け、三九〇糎の長さがある。



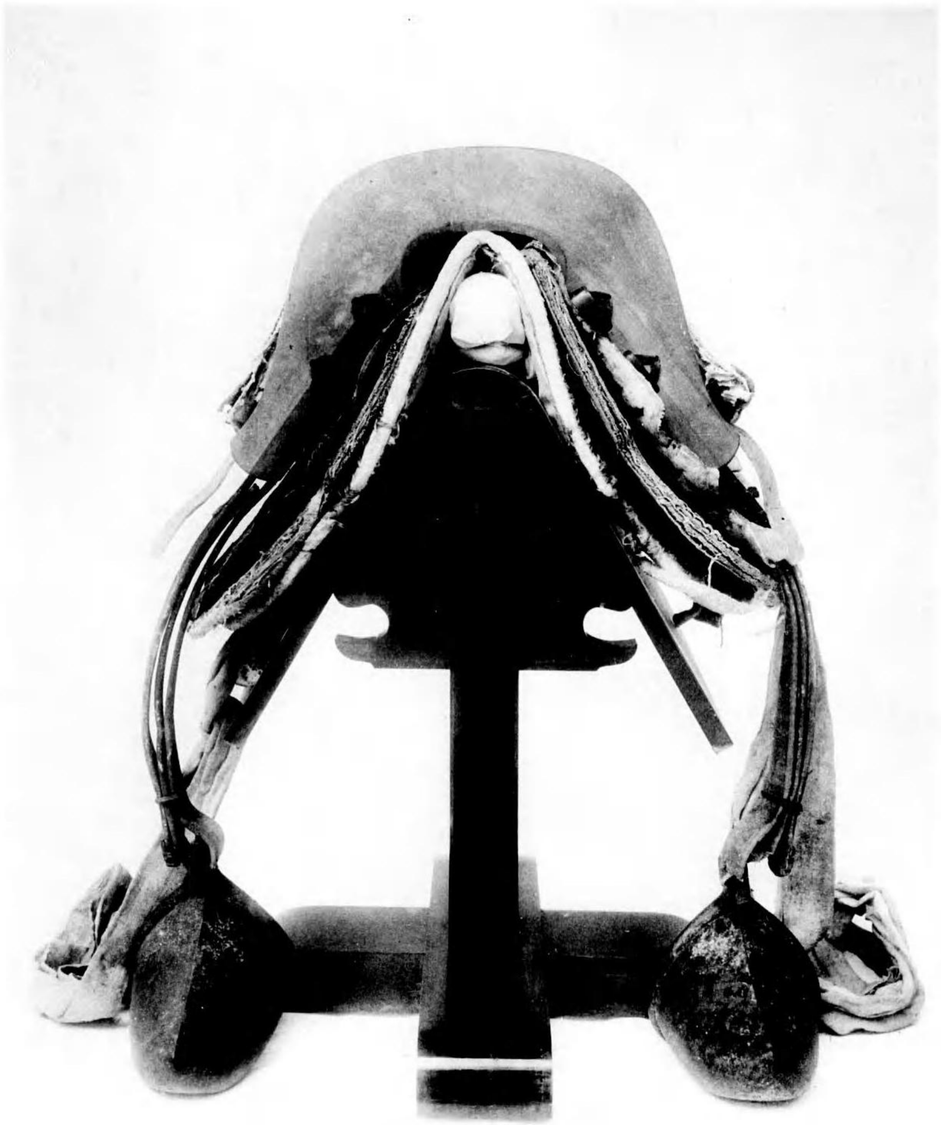
第五十一圖　様地袖三襞（袖三襞の部分を示したもの）

袖三襞の部分を示したものである。麻糸を以て平打にしたものである。向つて左端にあるは胸襞である。三つの取紐があるが、向つて左端にあたる打目のところ、これを襞の取紐に於て下に向けて打ちを一振りしたのである。



第五十三圖　榛地牟久木塗居木鞍〔前〕　（縮寫十分ノ三）

掩は前にのせた鞍橋の類と趣を等うしてゐるが、居木は坐を赤塗、居木先を黒塗と塗分けてゐる。三懸の類は失はれてゐる。



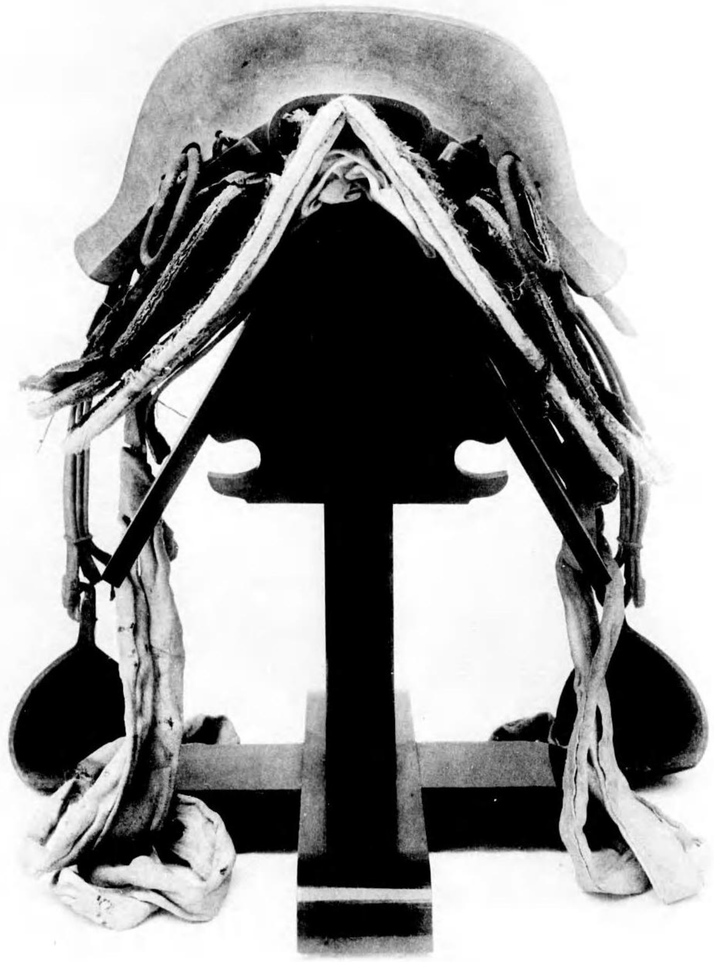
第五十四圖　榛地牟久木塗居木鞍〔後〕

（縮寫十分ノ三）

前輪　高さ　二六糎　馬挾の長さ　三二糎

後輪　高さ　二四五糎　馬挾の長さ　三九五糎

後輪のみにある鞍は紫韋卷絎、絡のみで遊管の類を用ゐてゐない。



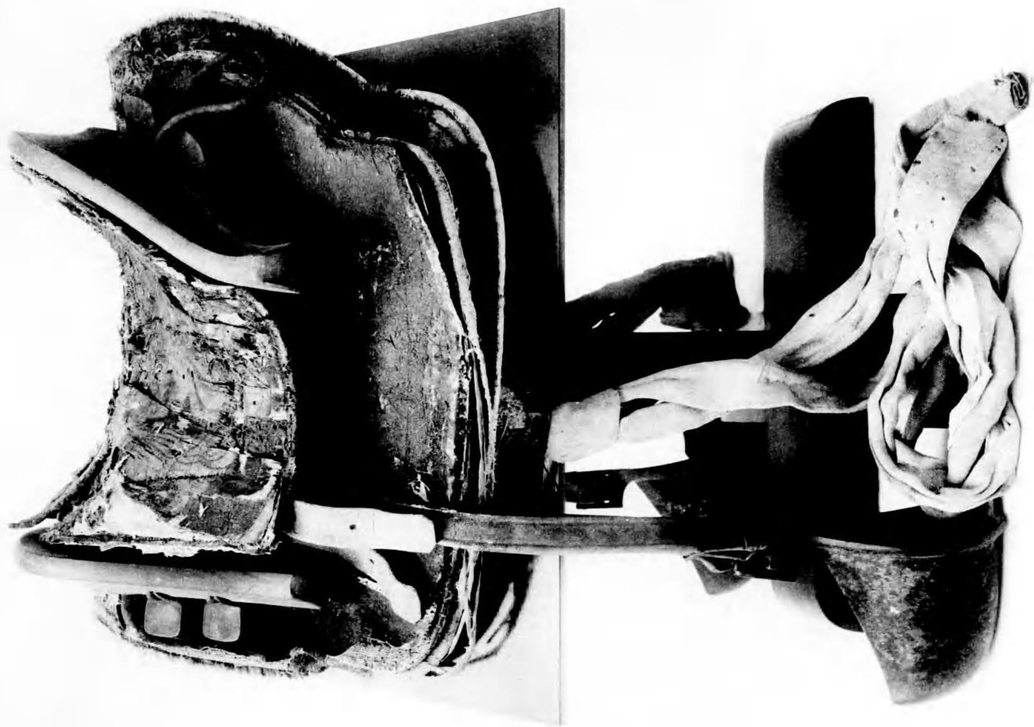
第五十五圖　榛地牟久木塗居木鞍〔側〕　（縮寫十分ノ三）

鞍褥・鐙（くらしき・したがら）及び扉脊（とびらせ）は甚しく損じてゐる。

鞍褥は表に唐花錦を張り、下地を白絁とし、栗色氈の心・裏下地の布から白絁の裏となつてゐる。

鐙は表を黒漆塗の皺革（しぼかは）とし、裏に黄の熏韋（すがは）を張り、心は上から布・横目蒯蓬・木葉・竪目蒯蓬・横目蒯蓬・布の順に重ね、表面に輪廓と一重の町形文とを押してゐる。

扉脊は表を白絁、裏を白の布とし、縁に紫地錦を繞してゐるが、大部分が缺失してゐる。

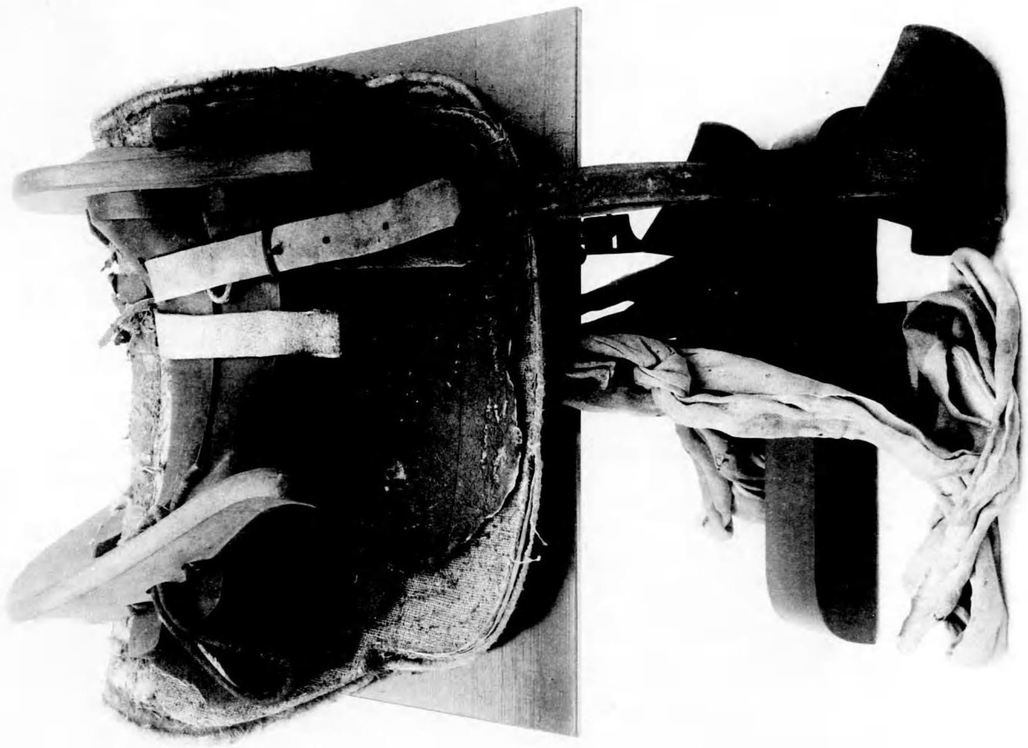


令和十五年　　新潟市文化財保護委員会　［撮］　（令和十六年一月）

第五十六圖　榛地牟久木塗居木鞍〔側〕　（縮寫十分ノ三）

力革と腹帶の根は共に白革製、腹帶は布製、左右を具し、一は長さ一〇五糎と一二七糎、他は一三五糎と五二糎との各々二手に分かれてゐる。

力革に懸る鐙組は黒漆塗、平新であるが、心に布を入れてゐる。壺鐙の胸が著しく高く揚がり、舌の短いのは御物の鐙に通じて見るところである。



第五十六回　東京帝室博物館大正元年度内大修理　（前）　（後ページ）

ものである。

今、次に述べた如く、此の時の修理に際して、新たに作られたものである。今現在の姿は、第一の修理の際に、新たに作られたものである。

此の二つの代表的な例に過ぎないのであるが、これを見ても、一切は、その時代の、その人の、その心持ちを、そのまゝ、表現するものである。

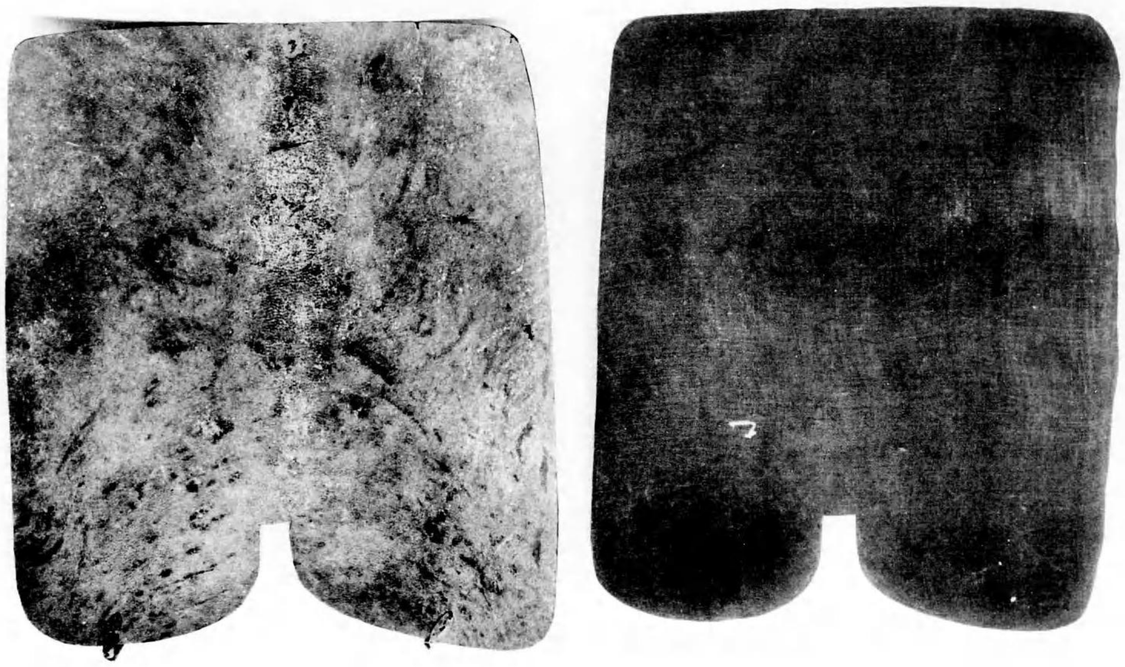
第五十七圖　陸泥

（縮尺五分ノ一）

何れの數に上すべきものであるかを明かにすることは出來ないが、陸泥四對と殘缺一括とを數へることが出來る。

栓は其の一對を表裏として表は熊の毛皮を以てし、裏に示せる如く、布を張つて黒漆を塗つてあるが今は表皮の毛は脱落し盡してゐる。

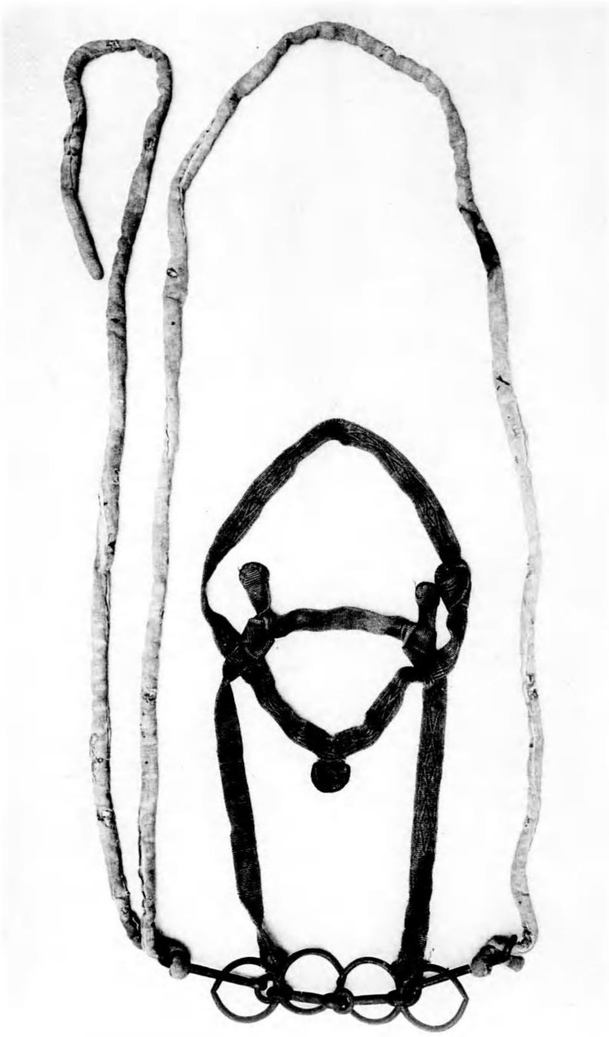
其の形、方形に近く、上邊の中央に谷を作り、雌雄の頂に孔を穿つて白鹿の紐をつけて居り、裏に白土を以て「乙」と書いてある。他の三對及び殘缺も夫々の仕立は一見と等しく、裏には「中」「甲」「丙」「丁」と白書してある。

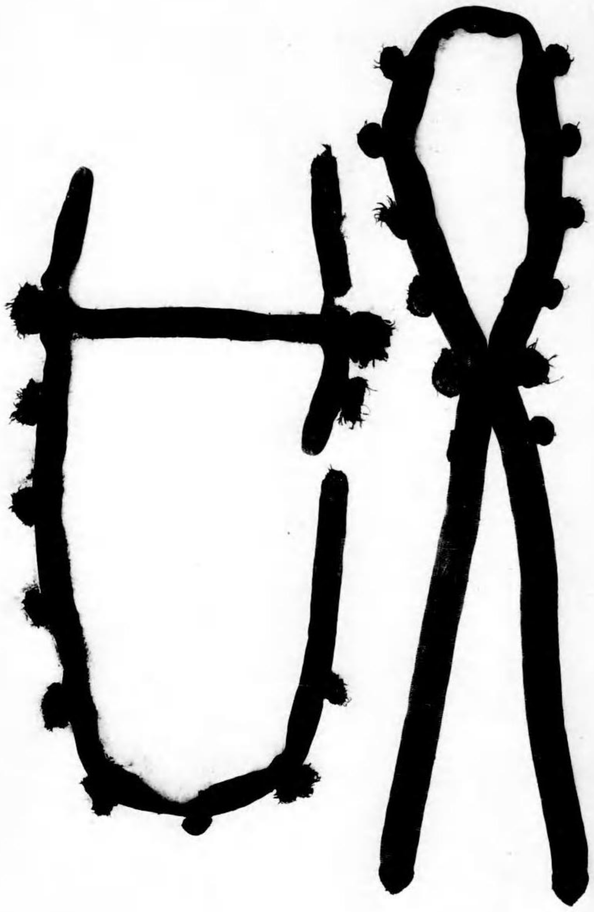


るもの、後世いふ辻繻子と様式を等うするものとである。

けだし厚繻子の、紫の算田織紐に辻繻子の算田織紐に辻繻子の、紫の算田織紐を組み出し、其の繻子の毛のたゝ殆んどすべてが、今は耗れて、僅かに其の毛のみを留めるに過ぎざるべし。

第五十八圖　三懸





第五十八圖　三　穢

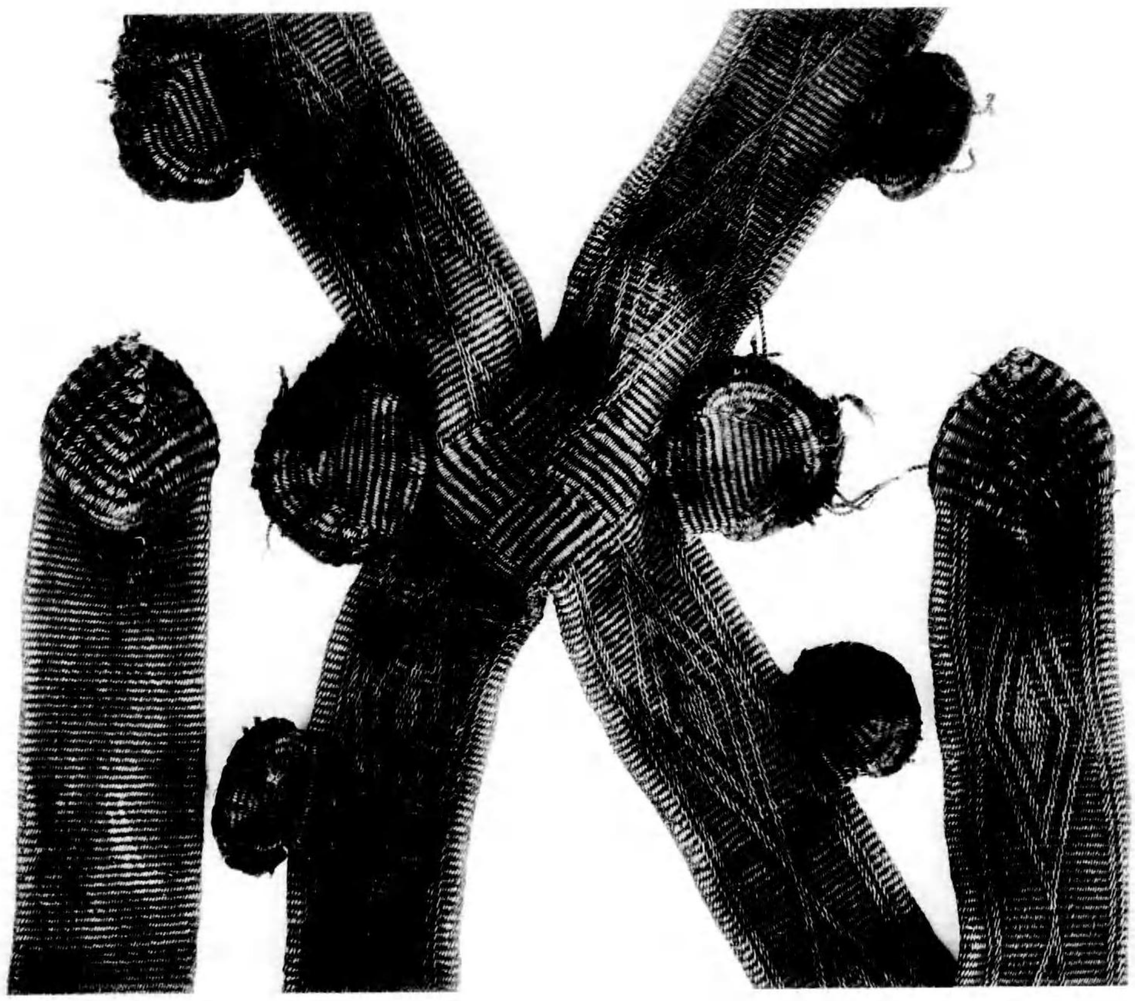
（ノ為五五頁）

第五十九圖　尻懸部分（原寸）

前圖の襷絡ふの端せた三懸の中、尻懸部分を示し紫貫田織である。

於ては絹糸の平紐を以て、菱紋を織り出し、各々端に結ばれ、其の端は組達の結びをつくつてゐる。

於ては經糸を束にし、細く出し、各々の端に結ばれ、其の端は組達の結びをつくつてゐる。



昭和八年十二月二十日印刷
昭和八年十二月廿六日發行

第五輯【定價金貳拾五圓】

帝室博物館

【不許複製】

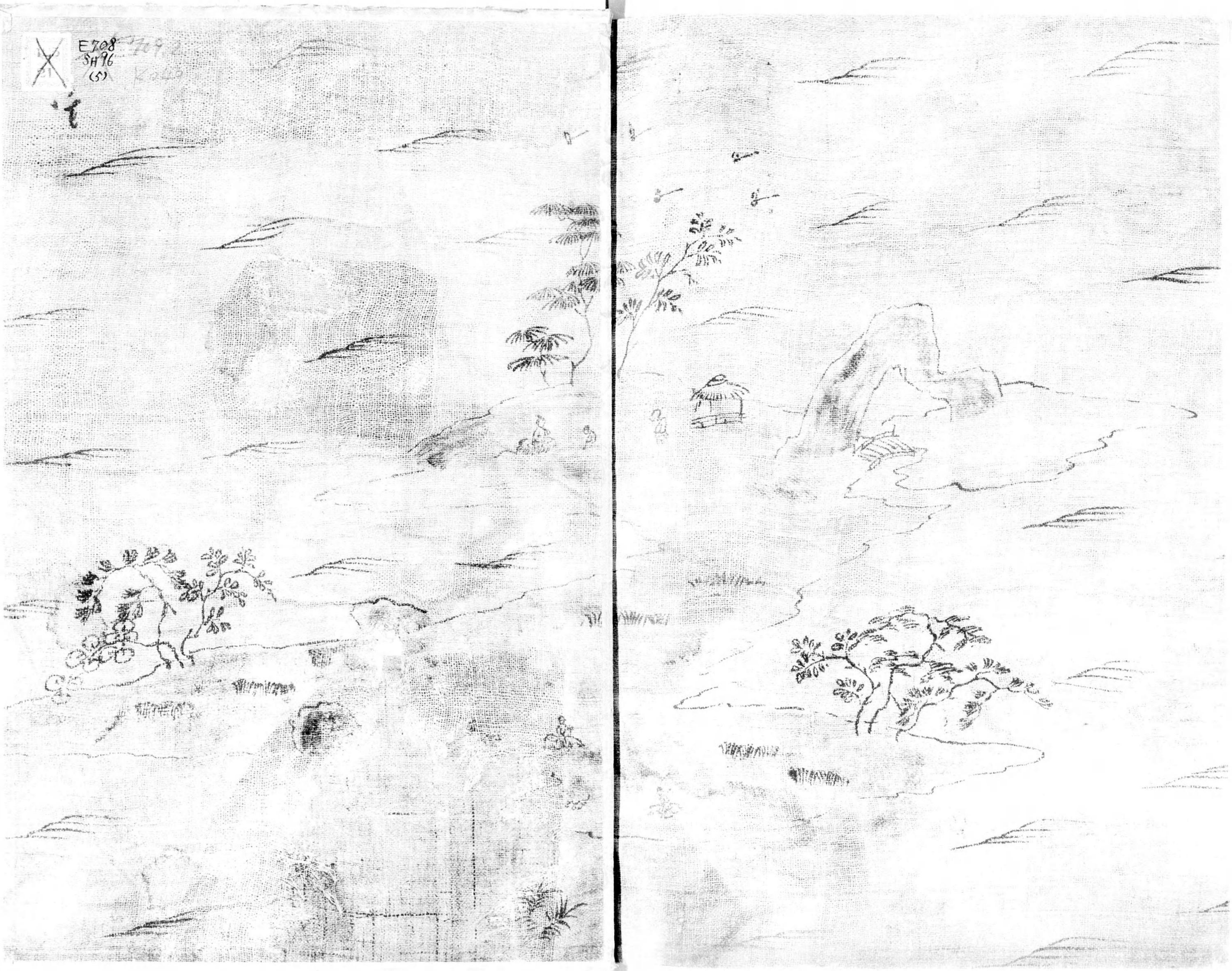
【本書頒布】

特定事物録

昭和六拾年十二月弐拾六日発行
昭和六拾年十二月二十日印刷

【日本社会党中央本部】編集者

E708
SH96
(5)



終